

向 丘 地 区



向丘地区町会連合会

● 昭和58年10月結成

森川町会 向丘追分町会
向丘追分東部町会 肴町町会
白山上自治会 西片町会
丸山福山町町会 丸山新町町会
蓬萊町会 向丘一丁目中町会
向丘一丁目上町会 東大農学部前自治会

■ 歴代会長

初代 若月 清市（昭和58年10月～昭和62年5月）
二代 西脇 龍三（昭和62年5月～平成3年5月）
三代 古道 武二（平成3年5月～平成9年5月）
四代 宇川 禎二（平成9年5月～平成13年5月）
五代 鷺尾 治男（平成13年5月～平成16年11月）
六代 山根 彬夫（平成16年12月～平成18年11月）
七代 渡辺 泰男（平成19年1月～平成24年5月）
八代 澁木 禧雄（平成24年5月～）

地区町会連合会のあゆみ

【地区の概況】

向丘地区は、文京区のほぼ中央の東寄りに位置し、本郷郵便局から駒本小学校までの本郷通り周辺地域と、東大農学部前から白山上までの旧白山通り（国道17号）周辺地域で構成される。

上野から不忍池を隔てて向こう側に開ける台地（丘）ということで向丘の名が付いたといわれる。

江戸時代には、大半が武家屋敷、寺領地で、明治以降は、主として住宅地として発展してきた山の手地域である。

区立の第一幼稚園、誠之小学校、駒本小学校、第六中学校や都立の向丘高校、私立の郁文館夢学園（中・高）、文京学院大学などの教育機関のほか、本郷税務署、東京都水道局文京営業所、向丘地域活動センター、向丘保育園、白山東児童館、白山東会館など多くの公共施設がある。

地区内の公共交通機関は、都電が廃止となった昭和47年以降、都バスのみであったが、平成8年2月に東京メトロ南北線が開通し、利便性が格段に向上した。

【地区町会連合会の概要】

向丘地区町会連合会（以下「向丘地区町連」という。）は、地区内に存する12の町会・自治会の連合組織として、昭和58年10月に発足、同日、文京区町会連合会に加入し、今日に至っている。

向丘地区町連は、各町会・自治会間の連絡機関として共通の事業遂行のため協調するとともに、地域の親睦を図り、町会・自治会の発展向上と福利増進に寄与することを目的に活動している。

具体的な活動内容としては、まず、各町会・自治会間で情報を共有し、相互に緊密



役員宿泊研修会（H25.6）



町会長・自治会長会議 (H24.9)

な連携を図るための町会長・自治会長会議の定期的な開催があげられる。

また、毎年6月には、文京区長や区の幹部を招いて役員宿泊研修会を開催し、区政に関する情報交換等に努めている。

さらに、毎年度、ふれあい向丘地区連合まつり、婦人向け施設見学会といった事業を継続して実施している。

ふれあい向丘地区連合まつりは、向丘地区の住民が交流する一大イベントである。お年寄りから子供たちまで、あらゆる世代の住民と一緒に楽しめるものとするため、平成23年度から運動会形式で実施している。事業計画の立案から実施まですべての準備作業を各町会・自治会から選出された運営委員が担当している。

婦人向け施設見学会も向丘地区町連の主要事業の一つである。これは、各町会・自治会を支えるご婦人の方々を対象に行うもので、都内外の各種施設を見学する事業である。平成23年度には東京ベイエリア、24年度には開業間もない東京スカイツリーなどを訪れている。

加えて、日本赤十字社の社資募集、共同募金、歳末助け合い募金、緑の募金といった各種募金活動も展開している。

近年は、防災対策にも精力的に取り組ん

でおり、平成22年には東京都・文京区と連携して広域防災訓練を行い、地域の結束と防災意識の高揚に努めている。

平成23年3月に発生した東日本大震災を契機として、住民の防災対策への関心はさらなる高まりをみせ、町会・自治会活動においても防災訓練等の活動を一層強化することとなった。

平成23年度には、東京都の「地域の底力再生事業助成」を活用し、『防災マップ』づくりに着手した。この防災マップには、災害時の行動マニュアルが掲載され、併せて避難所・防災倉庫・消火栓・消火器・貯水槽・町会掲示板等の所在が地図上に明記されている。住民の防災意識を高め、災害時に迅速かつ的確に行動できるようにとの思いから、地区内すべての町会・自治会がそれぞれ独自の防災マップを作成したものである。

このほか、平成24年には、管内における火災による死者ゼロ2,000日の達成を受け、東京消防庁本郷消防署長から向丘地区町連あてに感謝状が贈られた。

向丘地区町連は、今後とも地区内12の町会・自治会の連携を深めながら、向丘地区のさらなる発展のために全力で取り組んでいく。



ふれあい向丘地区連合まつり (H24.10)

■ 歴代会長

初代 石田 國廣（昭和27年10月～昭和28年4月）
二代 庵治川良雄（昭和28年5月～昭和32年3月）
三代 蟹江 茂男（昭和32年4月～昭和52年4月）
四代 大仁 利貞（昭和52年5月～昭和62年9月）

五代 古道 武二（昭和63年5月～平成9年5月）
六代 高原 康男（平成9年5月～平成12年5月）
七代 鯨井 勇（平成12年5月～平成17年5月）
八代 松尾 紀彦（平成17年5月～）

町会のあゆみ

森川町の町名の由来は、江戸時代森川宿と称していたことから、明治5年、岡崎藩主本多氏の屋敷地と先手組屋敷跡を併せて、里俗の森川宿から森川町と称えることとなったと伝えられている。

旧先手組屋敷は、森川金右衛門氏俊の組下、与力同心の大縄屋敷であったことから、中山道の建場（人馬が休むところ）として森川宿といわれた由である。

明治以降、森川町の中心に本多平八郎忠勝を祀る映世神社を本多氏が建立し、郷社として祭り、その祭日には、旧藩士達が甲冑を着て陣太鼓を打ち鳴らしつつ古式の行列が行われたと伝えられている。

加賀前田侯の上屋敷が東京帝国大学（東京大学）となり、その正門前に閑静な住宅地と、格調の高い商店街を形成してきた。

戦後、町会組織は解体となり、文化活動

をする自治組織のみが認められた一時代があったが、昭和27年に講和条約が発効した後、森川町会と旧名称を復活させて新たに発足した。

時代の変遷に合わせて変貌する建物とともに古い街並みは新しく高層化・近代化していくが、この町に住む人々の親しみ深い雰囲気の中に山の手の住民らしい上品な風潮をただよわせた町筋も残されている。

東大ができてからは、文学者や学生が多く住む町として大いに発展し、今日に至っている。

町会の行事としては、会員新年会、夏祭り（子供会・盆踊り大会）を開催し、秋祭り（向丘地区町会連合会運動会、根津権現の御祭礼）に参加。また、成人式・新入学・敬老の日に該当者への祝品の配布。他に、町内清掃、歳末夜警、お楽しみ会などがある。



求道会館

■ 歴代会長

初代	坂 民之進（昭和元年～昭和16年）	五代	坂 栄一（昭和27年1月～昭和62年12月）
二代	長谷川太郎（昭和16年～昭和23年）	六代	澁木重太郎（昭和63年1月～平成10年1月）
三代	森 岩太郎（昭和23年～昭和26年1月）	七代	箕浦 義一（平成10年2月～平成14年1月）
四代	小沼 一（昭和26年1月～昭和27年1月）	八代	澁木 禧雄（平成14年2月～）

町会のあゆみ

本郷通りを挟む向丘一丁目と二丁目の地域は、戦災から免れ、谷中・根津に次ぐ下町風情の残る町として栄えてきたが、昭和末期から平成初頭のバブル景気時には、地上げが起こり、町内に空き地・空き家が増え、防火・防犯対策が懸案となった。

その頃、「町をなんとか守ろう」「住みやすい、より良い町を作ろう」と町会役員が立ち上がった。地下鉄南北線の開通を念頭に、街路灯・掲示板の設置など、町の整備を進めた。また、近隣同士のふれあいの場を作るため、餅つき会、防災訓練、納涼まつり、ラジオ体操会、敬老お祝い品のお届け、寿の集い、根津神社祭礼、歳末夜警、米作り体験（商栄会との協力）などを実施して努めてきた。

昨今、マンション、高齢者入居施設や大学などの高層建物が建ち並ぶなど、町は大きく様変わりしたが、その中でも、先人たちの思いはしっかりと受け継がれている。

平成23年、57年ぶりに、戦後間もなく作られた大人神輿に、総修理を施した。解体された神輿の屋根裏から、神輿作成時の趣意書と連綿と綴られた御寄附者名簿（246名）が発見された。当時の方々の、町を盛り上げようとする篤い気持ちを感じられた。今般の神輿修理にかかる費用の捻出は大きな課題であったが、町会員・有志の方々のご協力により、予想を上回る御寄附金が寄せられた。伝統ある神輿と町をしっかりと守り、後世に伝えようとする思いが受け継がれていることを再認識した。

首都直下型大地震が案じられている今日、より堅固に備えねばならないが、何より、近隣住民たちの互いに助け合う心が大切である。そのためにも、平日頃から町会活動を通じた「つながり」が不可欠だ。

より良い住環境を作るため、古き良き伝統を守りながら、新しい人々との和を大切に、皆で力を合せて邁進する所存である。



納涼まつり（H24.夏）



根津神社大祭（H24.秋）

向丘追分東部町会

● 昭和25年4月結成

■ 歴代会長

初代 内山 圭悟 (昭和25年4月～昭和34年3月)
二代 佐々木重夫 (昭和34年4月～昭和38年3月)
三代 水上 一雄 (昭和38年4月～昭和50年3月)
四代 榎本 為一 (昭和50年4月～昭和51年3月)
五代 羽田 修果 (昭和51年4月～昭和54年3月)

六代 関 巳千雄 (昭和54年4月～昭和56年3月)
七代 西脇 龍三 (昭和56年4月～平成4年3月)
八代 福島 重治 (平成4年4月～平成16年3月)
九代 飯野 カネ (平成16年4月～平成20年3月)
十代 村松 賢英 (平成20年4月～)

町会のあゆみ

当町会の区域は、東大農学部の前に沿って東に折れ、本郷通りに平行して南北に連なっている。南端は朱殿門のある西教寺、続いて文豪森鷗外の小説「青年」に書かれている願行寺の石塀が並んでいる。このあたりは、震災、戦災をまぬがれ、東大の銀杏並木がまっすぐにのびる閑静な地域である。さらにその先は、日医大の奥に夏目漱石の邸宅があったことから、この辺の商店街を「ぼっちゃん商店街」と云っている。

昭和20年の大空襲のあと、町が復活し、60余年を経て、住む人も変わり、建って

いた家々も変貌してはいるものの、古い町筋と人の和は変わることなく継承されている。

現在、会員相互の親睦を図る目的で、ラジオ体操、バスハイク、御祭礼、歳末の警戒などを行っている。また、各募金活動への協力、婦人会活動のほか、地区対策委員による青少年の育成に協力している。平成23、24年に行われた12町会による大運動会では2年連続で優勝している。大変まとまりのあることを誇りとして、組織作りに励んでいる。



昭和36年 旅行会



昭和49年 お祭り



昭和49年夏 金魚釣り大会



平成24年 ラジオ体操

■ 歴代会長

初代 園田 勝二（昭和32年4月～昭和41年3月）
二代 荒川庄之助（昭和41年4月～昭和50年3月）
三代 五十嵐吉左衛門（昭和50年4月～昭和54年3月）

四代 田中 末吉（昭和54年4月～昭和61年3月）
五代 宇川 禎二（昭和61年4月～平成13年3月）
六代 吉田 亨（平成13年4月～）

町会のあゆみ

明治になり、駒込肴町とした町名は、大正、昭和、平成と引き継がれ、戦後町会が復活した昭和32年、肴町睦会を改称し、以前の肴町町会となり現在に至っています。

肴町は、かつては戸数も100戸余りの小さな町でしたが、老いも若きも一致協力し、榎町商店街（現在の白山上向丘商店街）として本郷地区随一の商店街となりました。

その後、マンションが立ち並び、景観もまったく変わってきました。人口も多くは

なりましたが、町会の行事にはなかなか参加、協力してもらえず、本当に寂しいものです。

肴町では、根津神社の祭礼を2年に1回、祭りのない年は日帰りバス旅行を実施しています。また、春・秋の全国交通安全運動に協力するほか、12月には餅つきか、いも煮会を行っています。そして、暮れには火の用心をやって、1年の行事が終了となります。



平成23年11月6日 肴町町会 日帰り旅行

■ 歴代会長

初代 丸山 俊誠（昭和28年7月～昭和30年8月）
二代 高木 重長（昭和30年9月～昭和36年8月）
三代 深澤 育弥（昭和36年9月～昭和46年8月）
四代 海野 清（昭和46年9月～昭和56年8月）
五代 土屋 太二（昭和56年9月～昭和63年3月）

六代 杉本 元宥（昭和63年4月～平成11年4月）
七代 重盛 米蔵（平成11年4月～平成16年4月）
八代 溝呂木春江（平成16年5月～平成24年4月）
九代 寺澤弘一郎（平成24年5月～）

町会のおゆみ

昭和27年の朝鮮戦争は日本の復興に弾みをつけ、当町会も前の住人が戻り、また新しい人が移住し、住民が多くなり町会復活の機運が出てきた。自主的に町会を再建したのか、行政からの要望であったのか定かではないが、昭和28年7月潮泉寺住職丸山俊誠氏を初代会長に、名称も白山上自治会として発足した。まず住居地の整備、道路の舗装、街路灯の設置などを行い、次いで安全、安心の地域環境の整備、維持、老人、子供への対処などが実施された。現在は総務部、資源回収部、交通部、防火防犯部、防災部、保健衛生部、文化部、婦人部、祭典部の9部制を敷き活動を行っている。春秋の交通安全運動、地域安全運動、防火防災訓練、年末夜警、清掃、ごみ集積所の管理等を行い、また文化部はラジオ体操会、レクリエーション、新年会を、婦人部は年末助け合いを始めとして各種募金運動、会費の集金、区報を始めとする印刷物の配布、各種施設への研修見学会、敬老会の実施、白山まつり、つつじ祭、盆踊りなど町内を越え幅広い地域活動を行っている。祭典部は根津神社の大祭に際し神酒所を

設置、町会員からの奉賛金で盛大に祭礼を行い、これもまた町内だけでなく7町会連合で、お練りを行っている。

これらの行事、運動を推進するため、毎月一定日に定例会を実施、役員全員で町会活動の内容、時期、方法、など話し合って決定している。なお、子供に関しては地区対に、高齢者に関しては民生委員に譲っていたが、最近孤独死、児童虐待などの問題が起こって来たので、町会として、向こう三軒両隣の1人暮らしの世帯に注意を、また区報配布の際に児童虐待に注意するよう心掛けています。以上、白山上自治会の歩みは行事、運営と共に有り、これらは全部「地縁」を大切に、育てたいとの一念で、縁が深まるのが会員の安全、安心で幸せな生活が送れるものと願っての事である。



おまつり風景

■ 歴代会長

初代 山根 静人（昭和28年7月～昭和41年6月）
二代 金澤 庸治（昭和41年7月～昭和54年6月）
三代 阿部 正道（昭和54年7月～平成10年7月）

四代 山根 彬夫（平成10年7月～平成18年11月）
五代 小倉 芳彦（平成18年12月～）

町会のあゆみ

[地域の特色]

本町会の地域は元福山藩主阿部家の丸山中屋敷である。北・西・南が崖で周囲から隔てられた台地で、わずかに東北方だけが中山道（国道17号）に面していた。地域内には数本の幹線道路をはじめ多くの街路が開かれ、阿部家の貸地、貸家には学者・文人が居を構えて、閑静な住宅地の文化が形成された。関東大震災やB29空襲の被害からも幸い免れたが、昭和の面影は次第に失われつつある。



西片会館

[町会の主な事業]

- 昭和28年（1953）10月 『西片だより』第1号を発刊、以後毎月発行して、670号に達する。（平成25年9月現在）
- 平成12年（2000）「地縁法人」として法人格を取得した。
- 平成15年（2003）旧西片会館の土地に新西片会館を新築した。
- 平成16年（2004）6月 誠之小学校で西片町会創立50周年記念式典が挙行された。
- 平成16年（2004）6月 町会創立50周年記念として『西片町の阿部家とその時代・西片町の郷土誌』が発行された。
- 平成24年（2012）10月 文京区から「防犯対策を推進する地区」の指定を受けた。

[主な年中行事]

- 1月 新年会
- 2月 新春餅つき会
- 4月 西片さくらまつり
- 9月 西片祭り（大人祭り・子ども祭り）
- 12月 歳末夜警



歳末夜警に出発

■ 歴代会長

初代 笹田 誠一（昭和30年4月～昭和35年3月）
二代 手島 續（昭和35年4月～昭和40年3月）
三代 藤本 留平（昭和40年4月～昭和50年3月）
四代 佐々木武男（昭和50年4月～昭和52年3月）

五代 清水 和雄（昭和52年4月～平成12年3月）
六代 北原 祺久（平成12年4月～平成21年3月）
七代 諏訪 勉（平成21年4月～）

町会のあゆみ

丸山福山町の町名の由来は、私共地域の崖上に備後福山藩主阿部氏の藩邸（中屋敷）がありました。また、この台地一帯が丸山と呼ばれており、福山の名と併せて「丸山福山町」としたと伝えられています。この古い名称を引き継ぎ、現在の町会が誕生しました。

私共の町は、本郷区と小石川区との旧境界にあって、かつては凸版印刷や共同印刷の下請け業者が多く居住していましたが、現在は印刷後の加工をする紙工業者が多く見受けられます。この庶民的な町に、明治27年、樋口一葉が、母と妹の3人で越してきました。

昭和27年初代会長の笹田誠一氏が私費を投じて一葉の記念碑を建設されたので、

往時を僅かに偲ぶことができます。町会では毎年献花を行っています。

平成16年には一葉の肖像が五千円札になり、当町会としては大変喜ばしく思っております。

その他町会行事として、白山神社の祭礼、あじさいまつり、盆おどり大会、秋の味覚まつり、餅つき大会などの行事を行っています。さらに、防災に関心を持ってもらうため、防災マップを作成し、避難所や消火器の場所などを分かりやすく表示するとともに、AEDを使用した救命救急講習会や防災用品の準備、訓練、他に防犯パトロール、交通安全、歳末警戒などの活動を続けています。



【一葉忌】に合わせ一葉碑に献花

平成24年11月23日：丸山福山町会

一葉碑に献花

■ 歴代会長

初代 木之村重吉（昭和26年10月～昭和30年12月）
二代 斎藤 三郎（昭和31年1月～昭和34年12月）
三代 清水 次郎（昭和35年1月～昭和39年7月）
四代 宮下 清（昭和39年8月～平成5年9月）

五代 斎藤 宏（平成5年10月～平成14年4月）
六代 植村 邦夫（平成14年5月～平成26年4月）
七代 椎名 修（平成26年5月～）

町会のあゆみ

往古は小石川村に属し、後阿部対馬守の中屋敷となって丸山屋敷と称えたが、元禄中上地して幕府の医師等の拝領屋敷があり、初めて丸山新町と称した。明治5年8月、付近の武家屋敷を併せて「丸山新町」となった。この丸山という里俗名称は、現在の町会名から言えば菊坂、田町、西片、丸山新町、白山前あたりの台地を指していたのだろう。白山下から当町に登る坂も胸突坂、中坂、浄心寺坂（お七坂）があり、こんもりと盛り上がった丸山を連想するのにことかない。これらの坂を登り切って旧中山道（国道17号）までの閑静な落ち着きのある

町筋である。

町会の中心にある、白山一丁目第二児童遊園（舟の公園）で、春の「花見の会」、夏の「ラジオ体操」、「夕涼みの会」、秋の「防災訓練」、冬の「歳末夜警」等、多彩な行事を実施しています。また舟の公園は地震発生時の一時集合場所でもあります。平成20年から「丸新だより」を年4回（季刊）発行しています。町会行事の概要報告をはじめ、町の歴史などを掲載し、古い伝統の継承と新しい人々の和を大切にする町会の組織作りに励んでいます。



お花見

■ 歴代会長

初代 奥田 実 (昭和28年1月～昭和30年3月)
二代 佐々木悟山 (昭和30年4月～昭和46年3月)
三代 倉田 光雄 (昭和46年4月～昭和53年6月)
四代 久貝 貫一 (昭和53年6月～昭和63年8月)
五代 高島 正義 (昭和63年9月～平成3年10月)

六代 廣澤長次郎 (平成3年10月～平成5年3月)
七代 小林 音吉 (平成5年4月～平成9年3月)
八代 三宅 英三 (平成9年4月～平成17年4月)
九代 本城 康至 (平成17年4月～平成23年5月)
十代 大畑 清心 (平成23年5月～)

町会のおゆみ

昭和56年の町名創始100年の記念事業は現在の町会運営の基本的な流れを生む良い端緒となった。しかし、バブルの崩壊と長期的な不況による自営業の減少や少子高齢化による町会員の減少等のため青年部を一時休部するところとなったが、役員若返りにより町会運営は活性化に向っている。

事業面では、根津神社祭礼の神輿行事が近隣町会と一体となり町の潜在エネルギーを反映し、特に平成22年から始めた花神輿(写真)は蓬萊町会の華となった。また、祭礼の陰の年には昭和40年当時の青年部により企画された「盆おどり大会」が大観音広場で行なわれ、子供太鼓に合わせ近隣町会との交流が図られている。2月の「もちつき会・しるこ会」も好評である。一方、「蓬萊町だより」は既に82号を数え町会運営の歴史と時々の文化的記録として定着している。

社会的問題対応としては日常的には防災・防犯・交通各部により地域の安全が図られているが、平成17年に突如公表された文京区立小・中

学校将来ビジョンによる駒本小学校の統廃合問題は不当な教育行政からの地域防衛を図るところとなった。

他方、平成19年に文京区地域防災計画が公表され、20年末に蓬萊町会・肴町町会・白山上自治会・浅嘉町会の4町会による駒本小学校避難所運営協議会が発足した。平成22年度の東京都・文京区合同総合防災訓練の避難所運営訓練では駒本小学校が主会場となり、区役所職員と協同して区として最初の演習を実施した。この協議会が区民の自助と行政の公助をつなぐ町会組織による協助機能を果たすための今後の課題は多い。



根津神社 花神輿

■ 歴代会長

初代 村瀬 利一（昭和27年4月～昭和47年12月）
二代 水上 一雄（昭和48年1月～平成13年3月）
三代 藤生千代吉（平成13年4月～平成15年4月）
四代 中島 幸夫（平成15年4月～平成25年5月）

五代 石原 文爾（平成25年5月～）

町会のあゆみ

歴代会長を中心に築かれてきた基礎を土台として、この間、「和をもって、明るく住みよい町づくり」を指針として各種活動が推進された。それらの要旨は以下のように総括することができよう。

① 活動費用の効率化と合理化を図り町会費の減額（平成20年度から年会費6,000円～4,800円）をはじめ町会員の高齢化への対応、町会ニュースの発行による情報の共有化、防災・防火・防犯意識の向上、各部活動の活性化を推進して明るい町づくりに努めてきた。

② 「中町会ニュース」発行は、町会活動のなかで重要な活動の一つと位置づけられ「中仙道・東片・飛脚便一向丘一丁目町会ニュース」のタイトルで平成15年5月に第1便を発行、以後隔月に1回定期発行している。平成23年5月発行のNo.48号から4ページ立てに増頁、写真を多用しカラー化、「親しまれる」「発行が待たれる」「読むより見る」ニュースづくりに努めている（平成24年No.57号から名称を「町会だより」に変更）。また、IT時代に対応して「中町会ホームページ」を開設（平成17年）、広報活動に力を注いでいる。

③ 防災・防火・防犯対策については、歳末防火・防犯夜回りをはじめD級ポンプ消

火訓練の恒例化、区・消防署の行う防災訓練への積極的参加、災害時の相互扶助を目的とした「女性サポート隊」の立ち上げ等々町会員の防災意識の向上に取り組んでいる。こうした“自分たちでつくる防災組織への取り組み”が評価され東京消防庁「地域防火防災功労賞」を受賞（平成19年）した。

④ 高齢化・独居家庭への対応も最重要課題の一つとして取り組み、これまでの「ご長寿さんへの記念品贈呈」とともに「敬老お食事会」の開催（平成23年）、役員による独居家庭への支援体制の構築、さらに親睦旅行・バスハイクなど創意と工夫を払っている。

⑤ 親睦、文化活動は、文化部主体に旅行、バスハイク、美術鑑賞、工場見学、落語を楽しむ会、釣の会等を町内に住むその道の専門家の支援、協力を得て実施し成果を上げている。今後もアンケートなどで町会員の要望を聞きながら幅広く推進し親睦交流に資することとしている。

⑥ その他 根津神社の祭礼、こども祭り、ゴミ処理・資源回収、行政との関わりについても、町会員の相互協力のもとで着実に進められている。



敬老お食事会 平成23年



防災・防火訓練 平成21年



こども神輿の宮入 平成24年

向丘一丁目上町会

● 昭和36年5月結成

■ 歴代会長

初代 鈴木 金二（昭和36年5月～昭和48年4月）
二代 尾高 全（昭和48年5月～昭和54年4月）
三代 内山 輝雄（昭和54年4月～昭和61年3月）
四代 吉田 光男（昭和61年4月～平成10年5月）

五代 鷺尾 治雄（平成10年6月～平成16年11月）
六代 若林 良雄（平成16年12月～平成20年5月）
七代 杉山 淑孝（平成20年6月～）

町会のあゆみ

当町会は、昭和36年5月区のご指導を得、発足致しました。初代会長には、当時紳士服店を営んでいた鈴木金二氏を選出し、以来12年間会員相互の親睦と地域の防犯防災意識向上に努め、会運営の基盤を確立していただきました。会長には、以来6代の方々に務めていただき会の主旨に添い、新しい行事も加えて現在に至っています。当会会員数は、約130世帯でこれを11班に分け、班長を置き、きめ細やかな連携体制を敷くことにより会員相互の連帯意識が向上し、各種行事への参加率も他に比し比較的高いと思われます。特に婦人部の活動は、大変活発で親睦の要となっています。主な年間活動は、下記のとおりです。

活動状況（抜粋）

- 4月 春の交通安全・防犯運動・花見会・神社つつじ祭り協力
 - 5月 定期総会・日赤社資募金活動
 - 6月 町会親睦旅行
 - 8月 納涼大会
 - 9月 敬老祝い金及び記念品贈呈・神社例大祭参加・秋の防犯防災運動
 - 10月 赤い羽根募金協力・向丘地区連合まつり（運動会）参加
 - 11月 防災訓練
 - 12月 歳末防犯防災警戒活動
 - 1月 成人祝い品贈呈・新年親睦会
 - 3月 小学校入学祝い品贈呈・班長引き継ぎ会
- その他定例役員会・町内防犯パトロール（毎月最終日曜日）・区役所、警察、消防など諸行事参加。



納涼大会



連合まつり

■ 歴代会長

初代 渡邊福次郎（昭和41年6月～昭和52年3月）
二代 外山 實（昭和52年4月～昭和55年3月）
三代 若月 清市（昭和55年4月～平成3年3月）
四代 蓮沼 博（平成3年4月～平成4年9月）

五代 坂田 豊次（平成5年4月～平成10年5月）
六代 渡辺 泰男（平成10年5月～平成24年5月）
七代 外山 眞一（平成24年5月～）

町会のあゆみ

当会は、昭和26年発足の「東大農学部前通り商睦会」の中で若手と言われるメンバーが中心となり、昭和41年6月「東大農学部前自治会」として発足しました。今では当会の歴史を語る人が少ないのが現状です。

現執行部が先代より引き継いだ物の中で一番の財産が「神輿」「子供山車」です。現在も大切に維持管理され、2年に一度の根津神社大祭の時期には町内を練り歩く姿を見る事ができます。平成18年には、根津神社御遷座300年を迎え、これを記念して江戸天下祭りの再現を期し、国宝級の神社神輿3基を氏が古式ゆかしい衣類を着用し、こぞって大々的に練り歩きました。当会も新築する神輿蔵の費用を準備し、会員多数が協力して大成功を収めることができました。これを契機に、町

の行事に新会員が参加し、町の次代を担ってもらう機運が生まれたのではないかと安堵しています。

当会前の本郷通り沿いに、東京メトロ南北線「東大前」駅があります。朝・夕のラッシュアワー時は、東大生、文京学院大生はもとより、サラリーマン諸氏ですごい混雑となります。

交通の便が良くなるにつれ、消費者の商店街離れが散見されるようになり、商店の廃業が多数見られるのは誠に残念なことです。解決策は今のところ見当たりません。その一方で、新築マンションが増え、会員数は増えています。

当会のいろいろある年間行事の中で、一押しが2月に行われる「ふれあい餅つき大会」です。大相撲力士を招いての餅つきは子供たちに大好評を博しています。



ハロウィン・パーティー



餅つき大会

